



## 白馬岳

「中信署」白馬村の西部に位置する白馬山国有林には、秀麗な白馬岳が望めます。

白馬岳の由来は、田の代掻<sup>しろか</sup>きの頃に現れる雪形が代掻き馬と呼ばれ、それが代馬から白馬へと変化したと言われています。

杓子岳、白馬鐘ヶ岳<sup>かねがけ</sup>と合わせて白馬三山とも呼ばれ、多くの登山客に親しまれるとともに、白馬連山高山植物帯として国の特別天然記念物に指定され、大切に保護されています。

白馬岳近代登山の歴史の中で、松沢貞逸が大きくかかわっています。同氏は、明治三十三年十一歳にして白馬岳初登頂を果たし、三十七歳の若さでこの世を去るまで登山道開拓など、白馬岳周辺の発展に尽力し、明治四十一年白馬岳山頂に日本初の山小屋（現在の白馬山荘）を建てる等、近代登山の先駆者として大いに

貢献したことから、現在、白馬岳の開山祭を「貞逸祭」とし、同氏を偲ぶとともにその功績を称えています。

白馬岳の魅力は、北アルプス随一と言われる高山植物の多様さです。ウルップソウを始めコマクサ、ツクモグサ、イワベンケイ、シナノキンバイ等の高山植物や、シロウマリンドウ、シロウマアサツキ、シロウマタンポポ、シロウマオウギなど白馬岳を名前にもつ種類も含め三百種を超える花々が競うように咲き誇り、多くの登山者を魅了しています。また、咲く花が時期により異なるため、何度訪れても違う姿を楽しむことができることも魅力のひとつとなっています。

登山途中で分らない花がありましたら、七月から八月の間、登山道にいる赤いシャツを着たグリーンパトロールの人に聞いてみてください。花の名前だけでなく、いろいろな話が聞けるかもしれません。

白馬岳は他にも、三大雪渓の一つ白馬大雪渓や天然記念物のライチョウ、鐘ヶ岳下の白馬鐘温泉など登山の醍醐味の全てがこの山にはあります。

是非白馬岳にお越しください。

### ◆アクセス

JR大糸線白馬駅から猿倉までバスで約三十分、大雪渓まで徒歩一時間三十分、頂上まで約四時間。



冬の白馬三山



グリーンパトロール隊員の活動



砂浴びをするライチョウ（雄）



稜線に咲くコマクサ